

横浜市立瀬ヶ崎小学校 学校便り

せがさきの風

大きな朝日さしのぼる 希望と愛の花が咲く

〒236-0037 横浜年金沢区六浦東三丁目2番1号
TEL 781-2446・2447 FAX 701-4892
ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/>
メールアドレス y3segasa@edu.city.yokohama.jp



2月号
2020（令和2）年
1月31日発行

自ら解決する力

副校長 角皆 裕文

とある日の昼休み、ある子どもが一人、職員室を訪ねてきました。その子は担任の先生を探しに来たような様子でしたが、あいにく部屋には私一人。外靴を脱ぎ、靴下で急ぎ飛び込んできた様子。目には涙がにじんでいました。「どうしたの？」私が尋ねると、その子は私にたった今起こった出来事を話し始めました。

遅れて遊びに入ろうとしたら、あまり良い顔をされなかったこと。
仲間の一人がやや強引に仕切っていることが気に入らないこと。

「そうか。嫌な思いをしたんだね。私からも担任の先生に伝えるけれど、自分でももう一度担任の先生に相談できるかい？」そう言って教室へ戻しました。それから教室でどのような話がされたのでしょうか・・・。

翌日のリフレッシュタイムに私が昇降口付近を歩いていると、仲間と共に勢いよく駆け出していくその子を見つけました。思わず並んで走りながら声をかける私。「お！昨日の話、どうなった？」並走する私に気付いたその子は、私と目を合わせたものの何も言わず、ただ右手の親指を軽く突き上げてだけで駆けていきました。時間にしてほんの3秒ぐらいの出来事でした。涙目の昨日から今日までの間に何があったのでしょうか。怒ったり、悩んだり、譲ったりしつつも、なんとか自分たちで乗り越え、「先生、もう大丈夫だよ！」と小さくサインを送ってくれたのだと想像すると、心の中がじわりと温かくなりました。

「この間のトラブルはどうやって解決したの？」

後ほど担任に尋ねると、その子から事情を聞いた担任は他の子どもたちと問題を共有し、改善方法を話し合うよう促したとのことでした。

話は変わりますが、いよいよ来年度から実施される新しい学習指導要領の内容を踏まえ、本校の職員たちは子どもたちのどの力を重点的に育てていきたいのかについて話し合ってきました。そこで挙げられた力のひとつに「問題解決力」があります。

この子たちが社会に出る頃はさらに情報化が進み、得られる沢山の情報を使ってどう問題を解決していくか、ということが求められるでしょう。そんな時代へ向けて、学校でも来年度からは前述の新しい学習指導要領の元、「手にした知識を使って何ができるようになるのか」を大切にできるようになっていきます。

さて、先ほどの話に戻すと、子どもたちは自分たちの力で「問題解決」に取り組んだと言えるのでしょうか。教室での話し合いの詳細は定かではありませんが、最終的に自分たちで何とか解決していた。そこには大切な学びがあったはずです。

こうして考えてみると子どもたちにとって、教室の外でも問題解決を迫られる場面がたくさんあることに改めて気づきます。ただ、ともすると私たち大人は子どもを助けようと先回りして、自分で解決する機会を摘んでしまうことがあるということも自覚しなければなりません。

子どもの成長に寄り添うということは、その子どもの失敗や葛藤も含めて見守っていくということなのだ、颯爽と走り去ったあの子の笑顔を思い出しながら改めて考えました。